

美学・西洋美術史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
美学・西洋美術史概論	アートの誕生現場:14世紀から現代まで	2	足達 薫	3	前期月曜日5講時	
美学・西洋美術史概論	美学・西洋美術史概論	2	FONGARO ENRICO	集中(3)	集中講義	
美学・西洋美術史基礎講読	西洋美術史文献精読	2	森田 優子	3	前期木曜日4講時	
美学・西洋美術史基礎講読	西洋美術史文献精読	2	森田 優子	4	後期木曜日4講時	
美学・西洋美術史実習	美術作品の視覚的分析:構図から細部までをいかに観察し記述するか	2	足達 薫	5	前期火曜日3講時4講時	
美学・西洋美術史実習	「空想の展覧会」の企画およびカタログ作成	2	足達 薫	6	後期火曜日3講時4講時	
美学・西洋美術史演習	美学・西洋美術史演習	2	FONGARO ENRICO	5	前期木曜日5講時	
美学・西洋美術史演習	西洋美術研究	2	足達 薫	5	前期金曜日4講時	
美学・西洋美術史演習	西洋美術研究	2	足達 薫	6	後期金曜日4講時	
美学・西洋美術史各論	ルネサンス美術と魔術:構造と方法の同調性	2	足達 薫	5	前期月曜日3講時	
美学・西洋美術史各論	ルネサンス美術における視覚的ユーモア	2	足達 薫	6	後期月曜日3講時	
美学・西洋美術史各論	美学:体験、概念、雰囲気	2	MARINUCCI LORENZO	6	後期水曜日2講時	
美学・西洋美術史各論	西洋中世におけるキリスト教と美術	2	谷古宇 尚	集中(5)	集中講義	
美学・西洋美術史各論	フランス新古典主義の美術	2	阿部 成樹	集中(5)	集中講義	

科目名：美学・西洋美術史概論／ Aesthetics and History of European Fine Arts (General Lectur

曜日・講時：前期 月曜日 5講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LB31502, 科目ナンバリング：LHM-ART202J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アートの誕生現場：14世紀から現代まで
2. Course Title (授業題目)：The Birthplace of Art: From the 14th Century to the Present
3. 授業の目的と概要：中世末期から現代にかけての絵画および彫刻の発展過程を理解するためには、「アーティスト」および「アート」という概念の形成過程を理解することが必要不可欠です。この授業では、信仰や崇拝の対象として制作されていた絵画や彫刻が、いかにして現代の私たちが知るアートへと「変容」していったかを、特に重要な役割を果たした作品および事例の分析を通じて概観します。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In order to understand the development of painting and sculpture from the late Middle Ages to the present day, it is essential to understand how the concepts of "artist" and "art" were formed. In this course, we will look at how paintings and sculptures, which were originally created as objects of faith and worship, were "transformed" into the art that we know today through the analysis of works and examples that played a particularly important role.
5. 学修の到達目標：アーティストおよびアートという概念の形成過程を具体的な作品および作家を通じて理解する。美術作品の視覚的分析のための具体的な観点および手順（特にイコノグラフィー、様式と形式）を理解する。14世紀から現代までの重要な美術作品を理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To understand the process of formation of the concepts of artist and art through specific works and artists.
Understand the specific perspectives and procedures (especially iconography, style and form) for the visual analysis of works of art.
Understand important works of art from the 14th century to the present.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1：アートとは？——コミック作品『QED』『ファイハの画集』を起点として
 - 2：アートワールド
 - 3：イコノグラフィー (1) 美術作品を分析する方法
 - 4：イコノグラフィー (2) 「時代の目」
 - 5：形式と様式
 - 6：署名と自画像
 - 7：アーティスト誕生の瞬間 (1)
 - 8：アーティスト誕生の瞬間 (2)
 - 9：炎上するアーティストたち
 - 10：美術アカデミーの誕生
 - 11：「本物そっくり」とは何か？
 - 12：印象主義からファン・ゴッホへ
 - 13：写真術とピカソ
 - 14：アートの勝利？
 - 15：アートの昨日と近未来(注：資料作成の過程で発見した内容に基づいて変更することがあります)
8. 成績評価方法：

毎回の授業における「問い」に対するコメントカードを総合して評価します。
9. 教科書および参考書：

授業で指示します。
10. 授業時間外学習：配布資料をヒントにしなが、授業で取り上げた名作や問題作をインターネットや画集で見直すと、記憶と理解が深まりますのでおすすめです。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
メールアドレスは kaoru.adachi.d1●tohoku.ac.jp です。(●は@)

科目名：美学・西洋美術史概論／Aesthetics and History of European Fine Arts (General Lectur

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：3 単位数：2

担当教員：FONGARO ENRICO

コード：LB33202, 科目ナンバリング：LHM-ART202J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美学・西洋美術史概論

2. Course Title (授業題目)：Aesthetics and History of European Fine Arts (General Lecture)

3. 授業の目的と概要：西洋美学と西洋美学史の基本的な知識を得た上で、その翻訳の問題について理解する。東洋の美学との比較するための基盤をつくる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to acquire basic notions about Western aesthetics and its history, and to understand the translation's problems related to this topic, in order to create a base for a comparison with Eastern aesthetics.

5. 学修の到達目標：美、美的経験など、美学の基本的概念について古代ギリシャから現代までを概観する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course aims to introduce some fundamental concepts related to aesthetics, such as "beauty", "aesthetic experience" and so on, from the Greek antiquity till contemporary thought.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

クラスコードは woc75br です。

Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. 美学とは何か
2. 「美」とは何か
3. 調和としての美 (1)
4. 調和としての美 (2)
5. 調和としての美の批判 (3)
6. 快楽としての美 (1)
7. 快楽としての美 (2)
8. アイデアとしての美 (1)
9. アイデアとしての美 (2)
10. アイデアとしての美 (3)
11. 悟性を超える美 (1)
12. 悟性を超える美 (2)
13. 美と崇高 (1)
14. 美と崇高 (2)
15. 試験

8. 成績評価方法：

期末テスト(持ち込みなし)によって評価する。ただし、オンライン開講になった場合は、毎回の課題の提出およびその内容によって評価する。(100%)

9. 教科書および参考書：

Classroomに適宜資料を配布する。

10. 授業時間外学習：Some materials will be handed during the lessons on Classroom.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：美学・西洋美術史基礎講読／Aesthetics and History of European Fine Arts (Introductory R

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：森田 優子

コード：LB34401, 科目ナンバリング：LHM-ART206J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：西洋美術史文献精読
2. Course Title (授業題目)：Intensive Reading of Western Art History
3. 授業の目的と概要：欧文文献の精読を行い、美術作品を研究する基礎を身に着ける。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read English texts in detail and their necessary knowledge for the research of art works.
5. 学修の到達目標：西洋美術史に関する英語文献を正確に読めるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of this course is that students read accurately English texts of western art history.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 講読 (1)
 3. 講読 (2)
 4. 講読 (3)
 5. 講読 (4)
 6. 講読 (5)
 7. 講読 (6)
 8. 講読 (7)
 9. 講読 (8)
 10. 講読 (9)
 11. 講読 (10)
 12. 講読 (11)
 13. 講読 (12)
 14. 講読 (13)
 15. 講読 (14)
8. 成績評価方法：

授業への出席・発表 (50%)、期末課題 (50%)
9. 教科書および参考書：

イタリア・ルネサンスにかんする美術作品についての文献を精読する。

Textbook: A variety of reading texts about Italian Renaissance art will be used.
10. 授業時間外学習：授業前に自分の担当部分を和訳し、それ以外の部分にも目を通しておくこと。

Students are required to read the designated textbook and translate its own assigned part for each class.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：美学・西洋美術史基礎講読／Aesthetics and History of European Fine Arts (Introductory R

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：森田 優子

コード：LB44306, 科目ナンバリング：LHM-ART206J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：西洋美術史文献精読

2. Course Title (授業題目)：Intensive Reading of Western Art History

3. 授業の目的と概要：西洋美術史の研究を行う上で基礎となる欧文文献の精読を行い、美術作品研究の基礎を身に着ける。そのうえで、古典語、フランス語、ドイツ語、イタリア語などにも目配りできるようになることが望ましい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read English texts in detail and their necessary knowledge for research of art works and to introduce the students to read the texts in other languages.

5. 学修の到達目標：西洋美術史に関する英語文献を正確に読めるようになるとともに、英語以外の言語についても調べられるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of this course is that students read accurately English texts of western art history and read the reference books in other languages.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション

2. 講読 (1)

3. 講読 (2)

4. 講読 (3)

5. 講読 (4)

6. 講読 (5)

7. 講読 (6)

8. 講読 (7)

9. 講読 (8)

10. 講読 (9)

11. 講読 (10)

12. 講読 (11)

13. 講読 (12)

14. 講読 (13)

15. 講読 (14)

8. 成績評価方法：

授業への出席・発表 (50%)、課題 (50%)

9. 教科書および参考書：

イタリア・ルネサンスにかんする美術作品についての文献を精読する。

Textbook: A variety of reading texts about Italian Renaissance art will be used.

10. 授業時間外学習：授業前に自分の分担部分を和訳し、それ以外の部分にも目を通しておくこと。

Students are required to read the designated textbook and translate its own assigned part for each class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：美学・西洋美術史実習／Aesthetics and History of European Fine Arts (Laboratory Wor

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時. 前期 火曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LB52307, 科目ナンバリング：LHM-ART307J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術作品の視覚的分析：構図から細部までをいかに観察し記述するか
2. Course Title (授業題目)：Visual analysis of works of art: how to observe and describe from composition to detail
3. 授業の目的と概要：美術作品を視覚的に分析し、言語化するための手順と観点、およびインターネットおよび文献資料を通じて作品の画像資料および基本的データを収集する方法を習得する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Understanding the procedures and perspectives for visual analysis works of art and linguistically describing them, and learn how to research imagery and basic data of the work through the Internet and literature.
5. 学修の到達目標：美術作品の視覚的分析、資料調査、カタログ記述を自ら行う力を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Acquiring the ability to perform visual analysis of works of art, material research, and catalog description.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この科目は「対面授業」を予定しています(2022年2月現在：状況により変更あり)。
また、Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。
Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1：美術作品の視覚的分析一目的と目標
2：客観的なことばを目指して
3：フォーマット
4：構図
5：空間
6：色彩
7：明暗
8：線
9：モデリング
10：人物像
12：見学会（場所、展覧会等は未定）
13：作品研究ポスターの制作（1）作品の選定
14：作品研究ポスターの制作（2）中間発表
15：作品研究ポスターの発表
（見学会の時期、集中講義の予定等により、内容の変更や休講がある場合があります）
8. 成績評価方法：
出席、課題への準備、発表内容を総合して評価します。
9. 教科書および参考書：
授業中に指示します。
10. 授業時間外学習：毎回の発表のための準備（情報調査、文章作成、スライド作成）および最終課題（ポスター作成）が必要となります。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
この実習は「卒業論文」のための訓練も兼ねており、美学・西洋美術史専修の学生は後期も連続履修してください。
出席が義務となりますので、やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡してください（他の講義、演習などの時間を通じてでも OK です）。また、課題を進める上での質問や相談があれば、とくに毎週水曜日 13:00～14:00 に研究室へ、または次の E メールへご連絡ください。Kaoru.adachi.d1●tohoku.ac.jp （●は@に変えて送信してください）。

科目名：美学・西洋美術史実習／Aesthetics and History of European Fine Arts (Laboratory Wor

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時. 後期 火曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LB62308, 科目ナンバリング：LHM-ART307J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：「空想の展覧会」の企画およびカタログ作成
2. Course Title (授業題目)：Planning and cataloging of the "Imaginary Exhibition
3. 授業の目的と概要：美術作品が有する視覚的特質を歴史および文化の中に位置づけ、作品の意義および価値を提示する能力を身につける、前期に行うポスター作成をさらに拡大強化し、「空想の展覧会」（フランスの文学者・文化史家アンドレ・マルローの概念に起因する）を企画し、カタログを作成するまでの作業を行う。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will acquire the ability to present the significance and value of works of art by placing their visual qualities in the context of history and culture. They will expand and strengthen the poster creation process of the first semester, planning an "imaginary exhibition" (based on the concept of French literary and cultural historian André Malraux) and creating a catalog.
5. 学修の到達目標：美術作品の歴史的・文化的価値を明確に記述し、魅力的なコンセプトに基づく展示プランを立ててカタログを制作することにより、美術館や博物館などでの実践のための基礎的能力を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：By clearly describing the historical and cultural value of works of art, formulating an exhibition plan based on an attractive concept, and producing a catalog, students will acquire basic skills for practical use in museums and art galleries.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この科目は「対面授業」を予定しています(2022年2月現在：状況により変更あり)。
また、Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。
Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1：「空想の展覧会」のコンセプト——マルローから現代へ
2：近代における美術作品の展示——礼拝価値から展示価値へ
3：企画準備 (1) コンセプト
4：企画準備 (2) 目玉作品
5：企画準備 (3) タイトルと章構成
6：企画会議——プレゼンテーション
7：作品選定 (1)
8：作品選定 (2)
9：作品制定 (3)
10：中間発表
11：カタログ制作 (1)
12：カタログ制作 (2)
13：カタログ制作 (3)
14：カタログ制作 (4)
15：最終発表
(註：状況に応じて、土日を利用した美術館見学も考えていますが現時点では未定です)
8. 成績評価方法：
出席、課題への準備、発表内容を総合して評価します。
9. 教科書および参考書：
授業中に指示します。
10. 授業時間外学習：毎回の発表のための準備（情報調査、文章作成、スライド作成）および最終課題（カタログ作成）が必要となります。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
この実習は「卒業論文」のための訓練も兼ねており、美学・西洋美術史専修の学生は後期も連続履修してください。
出席が義務となりますので、やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡してください（他の講義、演習などの時間を通じてでも OK です）。また、課題を進める上での質問や相談があれば、とくに毎週水曜日 13:00～14:00 に研究室へ、または次の E メールへご連絡ください。Kaoru.adachi.d1●tohoku.ac.jp （●は@に変えて送信してください）。

科目名：美学・西洋美術史演習／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：FONGARO ENRICO

コード：LB54406, 科目ナンバリング：LHM-ART306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美学・西洋美術史演習

2. Course Title (授業題目)：Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)

3. 授業の目的と概要：西洋美学の重要文献の原文および日本語訳を精読し、理解する。美学の専門的なテーマについて分析、発表し、議論をする能力を養う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The course aims to read carefully and understand important texts concerning Western aesthetics, in original language or translated in Japanese. The students will improve their ability to analyse, give presentations and discuss about topics related to aesthetics.

5. 学修の到達目標：西洋美学の重要文献について取り上げ、原文および日本語訳を対象しながら、美学の専門的なテーマについて分析、発表し、議論を行う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The course will be based on an important text concerning Western aesthetics, that will be read in original or in Japanese translation, analysed and discussed by the students.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

クラスコードは y7mhjzm です。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. ドゥルーズとは誰か
2. ドゥルーズとシネマ
3. 『シネマ 1』：運動に関するテーゼ
4. 『シネマ 1』：フレームとショット
5. 『シネマ 1』：モンタージュ
6. 『シネマ 1』：モンタージュ
7. 『シネマ 1』：イメージとは
8. 『シネマ 1』：知覚イメージ
9. 『シネマ 1』：感情イメージ
10. 『シネマ 1』：欲動イメージ
11. 『シネマ 1』：行動イメージ
12. 『シネマ 2』：時間イメージ
13. 『シネマ 2』：時間イメージ
14. 『シネマ 2』：時間イメージ
15. 試験

8. 成績評価方法：

口頭試験 (80%) およびレポート (20%)。

9. 教科書および参考書：

ジル・ドゥルーズ、『シネマ 1、運動イメージ』、『シネマ 2、時間イメージ』。

10. 授業時間外学習：Gilles Deleuze, Cinema 1, L' image-mouvement; Cinema 2, L' image-temps.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

毎回の授業後に、授業でとりあげた映画を見るのが必須である。映画の上映については授業時に詳しく説明する。

科目名：美学・西洋美術史演習／Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LB55408, 科目ナンバリング：LHM-ART306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：西洋美術研究

2. Course Title (授業題目)：Research on Western Art

3. 授業の目的と概要：古代から現代までの西洋美術史を対象にして、英語の研究論文を読解しながら、作品や作家についての「問い」を立てて調査および分析を行い、先行研究を踏まえた発表を行います。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：While reading English research papers on the history of Western art from ancient times to the present, we will raise 'questions' about works and writers, conduct research and analysis, and make presentations based on previous research.

5. 学修の到達目標：西洋美術に関する基本的な方法と用語を習得し、作品の分析と「問い」の設定（立論）、研究発表の方法を理解すること。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To master the basic methods and terms related to Western art, and to understand how to analyze works, set 'questions' (arguments), and present research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は「対面授業」を予定しています(2022年2月現在：状況により変更あり)。

また、Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1：ガイダンス (1) 研究の目的とこれからの予定

2：ガイダンス (2) 「問い」をいかに立て、先行研究に向き合うか

3：発表と議論

4：発表と議論

5：発表と議論

6：発表と議論

7：発表と議論

8：発表と議論

9：発表と議論

10：発表と議論

11：発表と議論

12：発表と議論

13：発表と議論

14：発表と議論

15：発表と議論

(注：発表のための準備および文献調査のために順番を入れ替えることがあります)

8. 成績評価方法：

発表の到達度および授業での議論への参加度を総合して評価します。

9. 教科書および参考書：

読解する英語の研究論文は授業の中で決定し、配布（またはダウンロード先を指示）します。

10. 授業時間外学習：発表者は先行研究の調査、読解、翻訳（全訳）、発表のための資料作成を行います。受講生はあらかじめ授業で取り上げられる主な作家や作品について各自で調査し、基本的な理解を深めておきます。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

この演習は4年次の「卒業論文」のための指導も行いますので、美学・西洋美術史専修の所属学生は後期も連続して履修すること。

出席が義務となりますので、やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡してください（他の講義、演習などの時間を通じてでもOKです）。また、課題を進める上での質問や相談があれば、とくに毎週水曜日 13:00～14:00 に研究室へ、または次のEメールへご連絡ください。Kaoru.adachi.d1●tohoku.ac.jp （●は@に変えて送信してください）。

科目名：美学・西洋美術史演習／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LB65407, 科目ナンバリング：LHM-ART306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：西洋美術研究

2. Course Title (授業題目) : Research on Western Art

3. 授業の目的と概要：古代から現代までの西洋美術史を対象にして、英語の研究論文を読解しながら、作品や作家についての「問い」を立てて調査および分析を行い、先行研究を踏まえた発表を行います。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : While reading English research papers on the history of Western art from ancient times to the present, we will raise 'questions' about works and writers, conduct research and analysis, and make presentations based on previous research.

5. 学修の到達目標：西洋美術に関する基本的な方法と用語を習得し、作品の分析と「問い」の設定（立論）、研究発表の方法を理解すること。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : To master the basic methods and terms related to Western art, and to understand how to analyze works, set 'questions' (arguments), and present research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は「対面授業」を予定しています(2022年2月現在：状況により変更あり)。

また、Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1：発表と議論

2：発表と議論

3：発表と議論

4：発表と議論

5：発表と議論

6：発表と議論

7：発表と議論

8：発表と議論

9：発表と議論

10：発表と議論

11：発表と議論

12：発表と議論

13：発表と議論

14：発表と議論

15：発表と議論

(注：発表のための準備および文献調査のために順番を入れ替えることもあります)

8. 成績評価方法：

発表の到達度および授業での議論への参加度を総合して評価します。

9. 教科書および参考書：

読解する英語の研究論文は授業の中で決定し、配布（またはダウンロード先を指示）します。

10. 授業時間外学習：発表者は先行研究の調査、読解、翻訳（全訳）、発表のための資料作成を行います。受講生はあらかじめ授業で取り上げられる主な作家や作品について各自で調査し、基本的な理解を深めておきます。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

この演習は4年次の「卒業研究」のための指導も行いますので、美学・西洋美術史専修の所属学生は前期から連続して履修すること。

出席が義務となりますので、やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡してください（他の講義、演習などの時間を通じてでもOKです）。また、課題を進める上での質問や相談があれば、とくに毎週水曜日 13:00～14:00 に研究室へ、または次のEメールへご連絡ください。Kaoru.adachi.d1●tohoku.ac.jp （●は@に変えて送信してください）。

科目名：美学・西洋美術史各論／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Special Lectur

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LB51304, 科目ナンバリング：LHM-ART302J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ルネサンス美術と魔術：構造と方法の同調性
2. Course Title (授業題目)：Renaissance Art and Magic: Synchronization in Structures and Methods
3. 授業の目的と概要：現代の美術や写真において、現実と虚構、自然と技術のあいだの境界線を揺らがせるような作品をしばしば「魔術的」と呼ぶことがあります。しかし、美術と魔術の相関関係はすでに古代において発見されていたものであり、初期近代にかけて美術と魔術（そして科学）は、自然を操作する人為的技芸として本質的レベルで交錯しながら発展しました。この授業では、特にイタリアのルネサンスに注目して、美術と魔術の共鳴現象を具体的な作品や作家の事例の分析を通じて、現代では忘れられがちな美術の側面を解説します。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In contemporary art and photography, we often refer to works of art that shake the boundaries between reality and fiction, nature and technology as "magical. However, the correlation between art and magic was already discovered in ancient times, and in the early modern period, art and magic (and science) developed as artificial arts that manipulate nature, intermingling at an essential level. In this class, we will focus on the Italian Renaissance in particular, and through the analysis of specific works and examples of artists, we will explain aspects of art that are often forgotten in the modern world.
5. 学修の到達目標：美術作品および作家を歴史的な脈と照らし合わせて分析する問の立て方および分析の手順を理解する。古代から初期近代のイタリアにおける美術の展開について理解を深める。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Understanding how to formulate questions and procedures for analyzing works of art and artists in relation to their historical contexts.
Understanding of the development of art in Italy from ancient times to the early modern period.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この科目は「オンライン授業」を予定しています(2022年2月現在：状況により変更あり)。
Classroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。
Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1：プロローグ——生きている彫像？
2：美術と魔術の共鳴現象——古代からルネサンスへ
3：同時代の言説における美術と魔術
4：イメージ魔術と肖像画 (1)
5：イメージ魔術と肖像画 (2)
6：絵画と暗号 (1)
7：絵画と暗号 (2)
8：怪物の創造 (1)
9：怪物の創造 (2)
10：絵画と記憶術 (1)
11：絵画と記憶術 (2)
12：絵画と鏡魔術 (1)
13：絵画と鏡魔術 (2)
14：絵画と呪い
15：エピローグ——絵画と錬金術
(註1：資料作成の過程で発見した事例に基づいて予定や各回のテーマを入れ替えたり修正したりすることがあります)
(註2：この授業では、今から見れば差別的だったりエロティックであったりする作品や描写がしばしば取り上げられます。特に、女性と男性の露骨な裸体や性的部位が現れる点について、受講する場合はご了承ください)
8. 成績評価方法：
毎回の授業における「問い」に対するコメントカードを総合して評価します。
9. 教科書および参考書：
授業で指示します。
10. 授業時間外学習：配布資料をヒントにしなが、授業で取り上げた名作や問題作をインターネットや画集で見直すと、記憶と理解が深まりますのでおすすめです。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
この授業では、今から見れば差別的だったりエロティックであったりする作品や描写がしばしば取り上げられます。特に、女性と男性の露骨な裸体や性的部位が現れる点について、受講する場合はご了承ください。

メールアドレスは kaoru.adachi.d1●tohoku.ac.jp です。(●は@)

科目名：美学・西洋美術史各論／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Special Lectur

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LB61302, 科目ナンバリング：LHM-ART302J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ルネサンス美術における視覚的ユーモア
2. Course Title (授業題目)：Visual Humor in Renaissance Art
3. 授業の目的と概要：美術という日本語に含まれた「美」という言葉は、しばしば、絵画や彫刻が美がかりでなく、もっと多様な感覚を生み出すという事実を忘れさせてしまいます。しかし、古代から現代まで、絵画や彫刻は笑いをも生み出してきました。この授業では、イタリアのルネサンス美術を対象として、視覚的ユーモアがいかにして生起していったかを具体的な作品を通じて理解します。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The word "beauty" in the Japanese word "art" often makes us forget the fact that paintings and sculptures create not only beauty but also more diverse senses. However, from ancient times to the present, painting and sculpture have also produced laughter. In this class, we will look at Italian Renaissance art to understand how visual humor emerged through specific works.
5. 学修の到達目標：美術作品を歴史的な脈に位置づけて分析する視点と方法を理解する。
15～16世紀イタリアの美術の主要な作品の流れを理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Understand the perspectives and methods of analyzing works of art by placing them in historical contexts.
To understand the flow of major works of Italian art in the 15th and 16th centuries.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この科目は「オンライン授業」を予定しています(2022年2月現在：状況により変更あり)。
Classroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。
Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。
1：プロローグ——イメージで笑わせるためのいくつかの例
2：ルネサンス文化における笑い
3：笑わせるためのいくつかの方法——アリストテレス『詩学』を起点として
4：エロス (1)
5：エロス (2)
6：パロディ (1)
7：パロディ (2)
8：逆転 (1)
9：逆転 (2)
10：連想 (1)
11：連想 (2)
12：皮肉 (1)
13：皮肉 (2)
14：誇張 (1)
15：誇張 (2)
(註1：資料作成の過程で発見した事例に基づいて予定や各回のテーマを入れ替えたり修正したりすることがあります)
(註2：この授業では、今から見れば差別的だったりエロティックであったりする作品や描写がしばしば取り上げられます。特に、女性と男性の露骨な裸体や性的部位が現れる点について、受講する場合はご了承ください)
8. 成績評価方法：
毎回の授業における「問い」に対するコメントカードを総合して評価します。
9. 教科書および参考書：
授業で指示します。
10. 授業時間外学習：配布資料をヒントにしながら、授業で取り上げた名作や問題作をインターネットや画集で見直すと、記憶と理解が深まりますのでおすすめです。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
この授業では、今から見れば差別的だったりエロティックであったりする作品や描写がしばしば取り上げられます。特に、女性と男性の露骨な裸体や性的部位が現れる点について、受講する場合はご了承ください。
メールアドレスは kaoru.adachi.d1●tohoku.ac.jp です。(●は@)

科目名：美学・西洋美術史各論／Aesthetics and History of European Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：MARINUCCI LORENZO

コード：LB63203, 科目ナンバリング：LHM-ART302J, 使用言語：

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美学：体験、概念、雰囲気
2. Course Title (授業題目)：Aesthetics: experience, notion, atmospheres
3. 授業の目的と概要：はじめに（1）現代美学の諸問題を提示し、次に（2）西洋美学の基礎的な知識を得た上で、（3）H. シュミッツとG. ベーメの「雰囲気論」を理解することを目指す。さらに、現代日本の美学的議論（特に大西克礼の「さび」論）も比較論的観点から考察する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The course will first (1) introduce themes and problem of contemporary aesthetics, then (2) deal with major moments of aesthetic reflection in European philosophy, up to the (3) study of atmospheres of H. Schmitz and G. Boehme. On these basis, we will also introduce the aesthetics produced in modern Japan, especially Ōnishi Yoshinori's transcultural discussion of sabi.
5. 学習の到達目標：授業の目的は西洋美学の根本的な問題や概念を理解し、それらを自分の研究に適用できるようになることである。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Aim of the course is introducing the fundamental problems and concepts of aesthetics, and guiding the students to apply them meaningfully in their own research interests.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
授業の主な資料はスライドである。授業の後、Classroomにアップロードされる。佐々木健一『美学への招待』（中公新書）も教材として参考に読むことをお勧めします。
 - 1 美学というのは・授業入門
 - 2 美学概論 美の色々な逆説
 - 3 美的な体験、概念、範疇
 - 4 芸術と美学、日常性と美学
 - 5 西洋美学の歴史・プラトン
 - 6 西洋美学の歴史・アリストテレス
 - 7 美学と近代性・バウムガルテン以後
 - 8 カントと判断力批判
 - 9 20世紀の美学と現象学的な美学
 - 10 雰囲気美学 I シュミッツの身体論
 - 11 雰囲気美学 II シュミッツの美術論
 - 12 雰囲気美学 III ベーメの雰囲气的な美学 I
 - 13 雰囲気美学 III ベーメの雰囲气的な美学 I
 - 14 現代日本美学・その人物と問題
 - 15 現代日本美学・大西克礼のさび論
 - 16 試験
8. 成績評価方法：
期末テスト(持ち込みなし)によって評価する(100%)。
9. 教科書および参考書：
佐々木健一『美学への招待』中公新書、2004年；増補版2019年
10. 授業時間外学習：授業後に配布されるスライド資料を読み込んで復習してください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：美学・西洋美術史各論／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Special Lectur

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：5 単位数：2

担当教員：谷古宇 尚

コード：LB98814, 科目ナンバリング：LHM-ART302J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：西洋中世におけるキリスト教と美術
2. Course Title (授業題目)：Christianity and Art in Medieval
3. 授業の目的と概要：ヨーロッパ中世美術史を概観できるようになる。聖堂や修道院における建築・絵画・彫刻の特徴を把握する。特にキリスト教の基本的な教義に注目しつつ、宗教と美術の関係を理解する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：To be able to survey the art of medieval Europe. To learn distinct characteristics of architecture, painting, and sculpture in churches and monasteries. To understand the relationships between religion and art, focusing on key tenets of Christianity.
5. 学修の到達目標：美術作品の造形的側面や形式、図像について調べる方法を学び、歴史的な背景をふまえて作品解説ができるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：You will acquire skills to analyze formal aspects and meanings of art works, and will be able to describe them against the historical background.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 古代から中世へ (1)
 3. 古代から中世へ (2)
 4. 見えない神、見える神、神のしるし (1)
 5. 見えない神、見える神、神のしるし (2)
 6. 見えない神、見える神、神のしるし (3)
 7. 聖遺物と天国 (1)
 8. 聖遺物と天国 (2)
 9. 聖母マリアの図像 (1)
 10. 聖母マリアの図像 (2)
 11. 聖母マリアの図像 (3)
 12. フランシスコ会の美術と宣教 (1)
 13. フランシスコ会の美術と宣教 (2)
 14. フランシスコ会の美術と宣教 (3)
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

最終回試験
9. 教科書および参考書：

授業中に指示する。To be provided during the course.
10. 授業時間外学習：予習：講義で取り上げる作品について、美術史上の基礎的な事柄を確認しておく。

復習：講義の内容を自分でまとめる。

Before class: learn basic knowledge about the art works which will be explained in class.
After class: review and summarize the content of lectures.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：美学・西洋美術史各論／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Special Lectur

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：5 単位数：2

担当教員：阿部 成樹

コード：LB98815, 科目ナンバリング：LHM-ART302J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フランス新古典主義の美術
2. Course Title (授業題目)：Neo-classical Art in France
3. 授業の目的と概要： フランスを中心とする新古典主義美術の主要な作品と作家、および様式上の特質を把握するとともに、趣味の変遷から流派の形成までを含む歴史的力学についての問題意識を得ることを目指します。
具体的には、フランス新古典主義の彫刻、建築、絵画の各分野について概観し、その特質を把握するとともに、それを生み出した社会的文脈についても考察します。
さらに新古典主義絵画における代表的な流派であるダヴィッドとその流派を取り上げ、フランス革命期の表象をめぐる闘争との関わりや、集団的個性の形成といった問題について考察します
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)： This course aims to understand the major works, artists, and stylistic characteristics of French neoclassical art, and to gain an awareness of the historical dynamics, including the transition of taste and the formation of schools.
Specifically, we will review the fields of French neoclassical sculpture, architecture, and painting to understand their characteristics and to examine the social context in which they were created.
In addition, we will focus on David and his school, a representative school of neoclassical painting, and discuss their relationship to the struggle for representation during the French Revolution and the formation of collective individuality.
5. 学修の到達目標：新古典主義美術の様式的特徴や主要な作品、作家について、一通りの知識を得ること。
ある時代の美術の潮流と、社会との関わりについて、専門的な考え方ができるようになること。
専門的な西洋美術史研究のあり方についての理解を得ること。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To gain a general knowledge of the stylistic characteristics of neoclassical art and its major works and artists.
To be able to think academically about the trends in art of a given period and their relationship to society.
To gain an understanding of the method of Western art history research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
以下の内容を適宜時間割内に割り振って進めます。
 - 1) 新古典主義美術の「発見」と定義
 - 2) 考古学的側面
 - 3) ヴィンケルマンと美術史
 - 4) 新古典主義彫刻
 - 5) 新古典主義建築
 - 6) 新古典主義絵画：「ダヴィッド革命」以前
 - 7) 新古典主義絵画と線の美学：タブラ・ラサ
 - 8) 新古典主義絵画：ダヴィッド前期
 - 9) 新古典主義絵画：ダヴィッド後期
 - 10) フランス革命の表象文化
 - 11) ダヴィッド派の形成
 - 12) ダヴィッド派第1世代：ジロデ、ジェラルル、グロ
 - 13) ダヴィッド派第2世代：アングルほか
 - 14) 全体のまとめ

*受講生の理解度を見ながら進行しますので、各回の内容は変更することがあります。
8. 成績評価方法：
事後レポートによる (100%)
9. 教科書および参考書：
もっとも有用な参考書は、以下の文献です。
D. アーウィン『新古典主義』岩波書店、2001年
10. 授業時間外学習：配付資料を読み込んでください。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし